

科目名		薬理学特論	
科目責任者	高 橋 富 美	(薬理学 教授)	
担当者	石 兼 真	(薬理学 講師)	
開講時期:	1～2年次	単位数:	6 単位
		時間数:	90分× 45 回
● 科目の教育目標 一般目標 (GIO) 薬理作用を発揮する過程で、薬物が生体のどの部位にどのように作用しているかを学習することを目指す。 行動目標 (SBOs) 1) 種々の細胞内シグナル伝達系を概説できる。 2) 薬理作用を仲介する機能を担う分子を概説できる。 3) 薬物作用機序解析における薬理学的アプローチの手法を説明できる。 4) 薬理学的アプローチの意義と問題点を説明できる。			
● 評価方法	検討会での討論(50%程度)・発表(50%程度)等で総合評価する。		
● 参考文献	講義の中で必要に応じ紹介する。		

授 業 項 目 (内 容)
イオンチャネル内蔵型受容体の種類とその機能
G蛋白質共役型受容体の種類とその機能
キナーゼ連結型受容体のシグナル伝達とその機序
核内受容体の種類とその機能
薬物による細胞機能への作用
薬物による細胞間情報伝達
受容体と薬物の相互作用
薬理学的実験手法とその実際
薬物動態学
薬物相互作用
薬物の用量の概念
薬物の副作用
薬理遺伝学
薬と法律
創薬研究